未来世代礼拝　小学生　(高)　礼拝説教 １２月②

復帰摂理⑥　　イエス路程②　「イエス様の十字架と復活」

今回は、イエス様の十字架についてのお話をしていきます。

イエス様は、洗礼ヨハネの失敗を取り戻す為に、サタンの三大試練を乗り越えられ、神様を愛する条件である、信仰基台を立てることができましたが、それで終わりではありませんでした。

イエス様がメシヤとして、世界の真の父母として立たれる為には、ユダヤ民族とイエス様がカインとアベルの立場で一つになるという実体基台を立てなければいけませんでした。

イエス様は、み言を語り、奇跡を起こすことを通して、イエス様ご自身が人類のアベルの立場であることを人々に示していかれました。

しかし、そのようなイエス様の姿をみながら、良く思わない人たちが居ました。

それは、祭司長や、律法学者たちでした。祭司長や律法学者は、昔からユダヤの人々に神様の事を語ってきた人たちでしたが、自分たちよりも神様の事を知っているイエス様であるにもかかわらず、そのイエス様を不信したのです。そして、イエス様の起こす奇跡を、「悪霊のかしらによるのだ！」と言って非難したのです。

祭司長達は、イエス様を殺してしまおうと考えました。

そして、イエス様の12弟子のひとりであるユダを利用して、イエス様を無実の罪で捕まえてしまったのです。

そのようにして、イエス様は、十字架にかけられてしまいました。しかし、イエス様は、自分を十字架にかけた人たちを恨みませんでした。

その時の様子が、聖書に書かれています。

「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカによる福音書23章34節)

イエス様は神様に、自分を殺そうとする人たちを赦して下さいと、お祈りされたのです。

そして、息を引き取られる前に

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」(ルカによる福音書23章46節)

と言われました。

 亡くなる最後の瞬間まで、イエス様は神様を信じ、自分の生命を神様にゆだねたのです。

このようにイエス様は十字架にかかられて亡くなってしまいましたが、実体基台は成功したのでしょうか？

実は、完全な成功とは言えなかったのです。何故なら、ユダヤ民族がイエス様を不信したからです。

人間には、責任分担があります。

神様が９５％の環境を準備して下さっていても、人間が５％の責任分担を果たせなければ、神様の願いは果たすことが出来ないのです。

神様は、この地上にイエス様を送って下さいました。そして、祭司長達をはじめとしたユダヤ民族は、イエス様を信じるという５％の責任分担を果たさなければならなかったのです。

でも、その責任分担を果たせなかったので、イエス様とユダヤ民族が一つになるという実体基台は失敗してしまいました。でも、希望が残されていました。

それは、イエス様が最後に息を引き取られるまで、ユダヤ民族を赦し愛しきったという条件があったのです。

サタンはイエス様が、最高に悲惨な立場に置かれたときに、どんな思いになり、どんな言葉を言うのか、試していました。

もしイエス様が、自分が死ぬことを恐れて、神様を恨んだり、自分を殺そうとする祭司たちや自分を裏切ったイスカリオテのユダを恨んだら、サタンの勝ちでした。

そうなれば、完全に神様の国をつくることを止めることが出来るからです。

しかし、イエス様は、どうだったでしょうか？

自分を殺そうとした人の為に祈ったのです。そして最後まで神様を愛しました。

そのようなイエス様の、神様を愛する思いに、サタンも勝つことができませんでした。

ユダヤ民族の不信によって、イエス様ご自身は、メシヤの使命を完全に果たすことはできませんでしたが、神様はあきらめませんでした。

イエス様は、亡くなられた3日目に、イエス様を見捨て裏切った弟子たちのもとに、霊的にあらわれます。そして、イエス様は弟子たちを一人一人愛し、イエス様のみ言や神様のことを多くの人に伝えていくように励ましていかれました。そして、弟子たちは、イエス様の愛を受けながら心から悔い改め、イエス様と心を一つにすることが出来たのです。

メシヤが来られるための基台として、この霊的な復活40日間が霊的な信仰基台となり、イエス様が弟子たちを愛し、一つになったことが霊的な実体基台となって、メシヤの為の霊的な基台を立てることが出来たのです。

本来は、イエス様がメシヤとして、世界の真の父母として立つことができれば、目に見える地上の世界も、救うことが出来たのです。

でも、イエス様が十字架にかかることを通して、イエス様は生きて、地上に天国をつくることが出来なくなってしまったので、この復活40日間を通して、神様の国をつくる道が閉ざされることの無いよう、希望の道を残されたのです。

そのイエス様の条件があったからこそ、今現在、世界に神様やイエス様を愛するキリスト教の基盤が広がり、メシヤである、真の父母様が地上に来ることができたのです。

今回のお話を通して、洗礼ヨハネに引き続き、ユダヤ民族もイエス様を不信し、イエス様は十字架にかけられてしまったこと。

そのような状況でもイエス様は、自分を殺そうとする人たちを赦し、愛して行かれたことを学びました。イエス様の十字架のお話から分かることは、赦しと愛は相手の心をも変えることが出来るということです。

皆さんも、否定されたり、苦しい思いをすることもあるかもしれません。そのような時には、是非、このイエス様の歩みを思いだし、乗り越えてほしいと思います。